

学校法人 育英学院

平成30年度 事業報告

1 法人の概要

(1) 法人の位置

(平成30年5月1日現在)

本学院名	設立年月日	理事長名	住 所	電話・FAX
学校法人 育英学院	昭10.4.1設立 昭15.2.22財法 昭26.2.26学法	並木豊勝	東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番8号	TEL 042-775-3020 FAX 042-775-3023

(2) 法人の設立目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従いつつ、カトリックの教育精神及び設立母体であるカトリック・サレジオ修道会の創立者ヨハネ・ボスコの教育理念に基づく学校教育を行い、社会に有為な人材を育成することを目的とする。【学校法人育英学院寄附行為 第3条】

(3) 法人設置の学校

(平成30年5月1日現在)

学校及び学科名	設置年月日	校長・園長名	住 所	電話・FAX
サレジオ工業高等専門学校	昭37.12.15	小島知博	東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番8号	TEL 042-775-3020 FAX 042-775-3021 URL http://www.salesio-sp.ac.jp
デザイン学科	昭37.12.15			
電気工学科	昭37.12.15			
機械電子工学科	平元.12.22			
情報工学科	平元.12.22			
専攻科 生産システム専攻	平13.2.15			
サレジオ中学校	昭23.3.24	北川純二	東京都小平市上水南町四丁目7番1号	TEL 042-321-0312 FAX 042-321-0776
サレジオ小学校	昭22.3.29			
目黒サレジオ幼稚園	昭24.8.30	三島心	東京都目黒区碑文谷一丁目26番24号	TEL 03-3714-2531
足立サレジオ幼稚園	昭42.3.13	見城澄枝	東京都足立区江北三丁目40番27号	TEL 03-3899-4497
町田サレジオ幼稚園	平27.4.1	小島知博	東京都町田市小山ヶ丘四丁目6番2号	TEL 042-775-3120

(4) 学生・生徒・児童・園児の現況 (平成30年度)

(平成30年5月1日現在)

学校名	職名							
	1年生 3歳児	2年生 4歳児	3年生 5歳児	4年生	5年生	6年生 専攻科 1	専攻科 2	合計
サレジオ工業高等専門学校	人 (180)199	人 (180)182	人 (180)183	人 (180)180	人 (180)156	人 (14)10	人 (14)14	人 (928)924
専攻科						(14)10	(14)14	(28)24
デザイン学科	(45)41	(45)36	(45)38	(45)39	(45)35			(225)189
電気工学科	(45)48	(45)42	(45)46	(45)40	(45)29			(225)205
機械電子工学科	(45)62	(45)41	(45)54	(45)54	(45)43			(225)254
情報工学科	(45)48	(45)63	(45)45	(45)47	(45)49			(225)252
サレジオ中学校	(30)24	(30)22	(30)30					(90)76
サレジオ小学校	(30)16	(30)22	(30)19	(30)21	(30)21	(30)21		(180)120
目黒サレジオ幼稚園	(110)147	(170)111	(170)141					(450)399
足立サレジオ幼稚園	(20)26	(110)20	(110)30					(240)76
町田サレジオ幼稚園	(60)34	(60)19	(60)37					(180)90
計	(430)446	(580)376	(580)440	(210)201	(210)177	(44)31	(14)14	(2068)1685

(5) 学校法人役員<理事・監事>

(平成30年5月1日現在)

役 職	氏名
理事長<互選>	並木 豊勝
理事<高専 校長>	小島 知博
理事<中学校長>	北川 純二
理事<評議員互選>	三島 心
理事<評議員互選>	濱邊 正
理事<評議員互選>	木戸 能史
理事<功勞者>	米本 光男
理事<功勞者>	小島 勉

役 職	氏 名
監 事	渡 辺 新
監 事	長 谷 川 純 也

※理事定数：6～8名

※監事定数：2名

(6) 評議員(定員18名) 氏名省略

(7) 教職員の現状

(平成30年5月1日現在)

学校名 \ 職名	校長 園長	教授	准教授	講師 教諭	助教 助手	非常勤 講師	事務 職員	非常勤 職員	合計
法人本部	人	人	人	人	人	人	3 人	人	3 人
サレジオ工業高等専門学校	1	13	23	7	5	54	24	13	140
サレジオ中学校	1			9		1		1	12
サレジオ小学校	(1)			10		2	1		13
目黒サレジオ幼稚園	1			18		5	4	12	40
足立サレジオ幼稚園	1			6		3		2	12
町田サレジオ幼稚園	(1)			6		8	2	5	21
計	4	13	23	56	5	73	34	33	241

※ 校長・園長の () は法人内他校兼務者

2 法人本部の方針

- ① 内部監査のチーム編成と強化並びに監事との連携
- ② 規則・規程の見直しと改正
- ③ 法人本部業務体制の強化
- ④ 人件費の維持と抑制
- ⑤ 事業支援 (主として目黒サレジオ幼稚園)

3 高等教育事業(サレジオ工業高等専門学校)の概要

少子化、若者の工学離れという高等教育機関を取り巻く環境は依然として厳しい状況であり、学校経営への影響は確実に顕在化しつつあります。厳しい競争環境のなかで、本校が勝ち抜き、生き抜いていくためには、原点である建学の精神に基づくミッション(使命)を大切にし、教育研究の充実を図り「選ばれるサレジオ高専」を目指して、教職員一同が校長方針のもと、一致団結して邁進することが重要です。そのために19年度に発表した経営ビジョンをふまえて中期計画を実行しています。平成30年度は第四期の中期経営目標(平成28-30年度)の3年目となります。

5年間一貫の特色ある教育を行う高等教育機関であり、唯一の私立ミッション系高専として創立者ヨハネ・ボスコの精神を教育活動に活かし、よき社会人、よき技術者を日本社会に送り出し、地域連携、産官学連携によって開かれた高専になることを目指して、中期経営目標の第四期目における本年度事業計画を策定し、この取組を報告致します。

(1) 教育・研究力の強化

平成 30 年度は第四期中期計画の目標達成を目指して以下について重点施策に取り組みました。

<1> 教職員によるアシステンツァの実践強化

年に 2 度の通学路指導の際にあいさつ指導も行いました。また就職、進学的面接試験の練習できちんと話ができるように学科ごとの指導に力を入れました。

<2> 研究環境の整備と推進

昨年同様に、科研費を申請することを奨励しました。実際に受け取ったのは 5 件です。他にも子ども夢基金から学科の活動資金を獲得し、またさくらサイエンスという基金からはモンゴル高専との共同研究費やフィリピンの姉妹校との交流の資金の提供も受けました。

<3> 退学者の減少

増加傾向にある退学者の数を減少させる取り組みを行いましたが、減少させることができませんでした。この結果をうけて 2018 年度中に学科ごとに 2019 年度に向けた具体的な停学者減少の取り組みを提出してもらいました。来週から始まる中間試験から取り組みの効果が測定できるようにしています。

(2) 社会貢献力の強化

社会貢献力の向上については平成 29 年度に引き続き以下についてさらなる進展をめざしました。

<1> 小中学校への協力

新入生獲得のためである募集活動の一環として小中学校から特別授業の依頼を受け、教員を派遣しました。またデザイン学科の募集状況を鑑みて、中学校の美術教員との協力体制づくりを行いました。なお近隣中学校の中学生を招聘してのサッカー・バレーボールの競技大会は見直して廃止しました。

<2> 産学連携の推進

大学コンソーシアム八王子には、産学公連携（学生研究発表）、大学間連携（単位互換）、生涯学習（市民大学）があり、大学コンソーシアムへの参加とその成果はサレジオ高専の存在感を示しました。また、さがまちコンソーシアムへ加盟し、市民大学、産学交流などの協力をしました。これらを通じて近隣 3 市に対する地域交流をさらに積極的に推進し、本高専の地域における貢献度をあげました。

<3> 学校広報の推進

昨年度は本校のイメージアップのためにリニューアルしたホームページを更新して有用性を広げ、さらに新しい情報が発信できる環境を作りました。またウェブネットワークを通じて企業や地域社会だけでなく卒業生とも広くコミュニケーションを図りました（動画を多用してより親しみの持てるコンテンツを増やしました）。

<4> 地域社会との連携事業

平成 20 年から始まった地元広報誌（アレサ）制作による町田市小山地区の町内会、商栄会、商工会議所との交流活動を行い、また今年度 12 年目を迎える八王子の「いちよう塾」の講座を継続しました。また相模原市・座間市の主催する市民大学の講座へも協力し、学校施設の市民開放を可能な限り進め、地域市民に対する文化拠点となるように努めました。26 年度に発足した「サレジオ高専地域交流協議会」との連携をさらに強め、商栄会、商工会議所とが主催するアレサまつりに参加しました。

(3) 経営力の強化

経営力の向上については平成 29 年度に引き続き以下についてさらなる進展を目指しました。

<1> 受験者数の増加を目指して

平成 30 年度生募集では、昨年より 27 名少ない 153 名の入学者になりました。8 年連続の定員確保となりませんでした。アンケートを実施し、教育研究所などの意見を参考にして新たな取り組みを 2019 年度に行い、受験者総数 320 名、入学者 180 名を目標数にして募集活動を行います。

<2> 長期計画の立案のスタート

大規模修繕の計画を進める中、本校には修繕費を含む内部留保資産の積み上げに取り組み、1,400万円の積み上げを行いました。また予算編成の見直し、ムダの削減にこれまで以上に意識的に取り組みました。

<3> 人財（材）育成

次世代のリーダーになる教職員に SMS「サレジオ・マネジメント・システム（目標管理で仕事をすること）」の理解の一層深める機会を与えることはできませんでした。評価者である管理職の評価方法への理解を促すための研修は行いました。SD(Staff Development)の組織を作り（実施し）、評価者の研修や研修費の不正使用などの危機管理意識高揚のための研修などに取り組みました。

<4> 人事・給与体系の再構築

人事・給与制度の根幹となる3つの評価（業績評価、行動評価、目標評価）については内容の見直しの必要があり、行動評価の内容の見直しを行いました。これらを通して将来の経営資源を適切かつ効率的に活用できることを目指します。

（4）特記事項：サレジオミッションの実践

<1> 司牧目標

サレジオ会の指導方針であるサレジオ・ストレンナに述べられている「ドン・ボスコの生き方にならない、神さまの呼びかけに応じて生きよう」の精神を本高専の教育目標に照らしつつ実現することを目標とし、特に「神からの呼びかけに気づいて、応える」ことをどのように伝えるか工夫をしました。

- ・月2回の院長講話
- ・月例ミサ
- ・掲示板の活用による聖書やドン・ボスコのことばの紹介

4 幼児教育並びに中等教育（中学校・小学校・幼稚園）の概要

（1）サレジオ中学校・小学校

<1> 総括

サレジオ家族ストレンナ

「Sir, Give me this water. Let us cultivate the art of listening and of accompaniment.」

「主よ、その水をください。 耳を傾け、共に歩む生き方を深めよう」

“耳を傾けること”

児童・生徒たちが、言葉に出して願うことはなくとも、個人的に出会うこと、耳を傾けて聞いてもらうことの必要性を深く感じていることを意識した。「もっと多くの時間を若者たちと共に無駄にし、彼らに耳を傾けることができるよう私たちを助けてください。私たちの父ドン・ボスコのように！」（クレメンテ神父）という言葉に基づき、教室で、広場で、廊下で、グループの分かち合いの中で、心を開いて、いつも喜んで、時間を無駄にしようと心がけた。

振り返りの中で、子どもたちの声にどの程度耳を傾けたのだろうか、耳を傾けているつもりでも本当に彼らの話したいこと・伝えたいことを聴き取っていたのだろうか、聞き取ったとしても、そのことにどのように応えただろうか、という課題が生まれた。

<1> 平成30年度重点課題

1. 保護者教育の充実：講演会などを開き、ドン・ボスコの教育・子どもとの接し方などの啓発をする。
⇒小学校1年生保護者校長講話（4日間）
⇒保護者会での校長の話は充実していた。
2. 遅進者指導の充実：特に中学校において、放課後の使い方を研究しながら、学力の底上げを図る。
⇒放課後の時間の使い方は特に部活動に影響される。練習がない平日は各部活動で曜日が違うため、時間を合わせる
ことが難しい。個別指導を充実させていく。

<2> 児童生徒募集

① 在籍数

小学校	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
30年度児童数	16	22	19	22	22	21	122
転入者	1			1			2
中学校	1年生	2年生	3年生				合計
30年度生徒数	23	21	30				74
転入者	1						1

② 募集活動

小学校

学校説明会：5月19日（土）30組、9月19日（水）30組

受験サイト内広告（3月～12月）、東京都私立小学校展（5月、29組）、朝日新聞・読売新聞・朝日小学生新聞広告掲載（5月）、東京都私立学校合同相談会（8月、資料参加）

中央線沿線私立小学校合同相談会（2月、23組）

中学校

学校説明会：6月30日（土）24組、9月29日（土）20組、12月15日（土）31組

東京都私立中高連盟第11支部合同相談会（5月）、東京都私立学校合同相談会（8月）

キリスト教学校フェア（3月、資料参加）、多摩スクールメッセージ広告、東京教区報告

小中共通

西武バス広告（小平営業所）

小教区やミッション系幼稚園・保育園・小学校への働きかけを促進する。

<3> 創立70周年関連（2017年度は小学校、2018年度は中学校）

1. 学校紹介ビデオの作製

学校説明会、ホームページ等での利用。

2. 寄付金募集

70周年を迎え、教育環境整備を行う。（空調関係更新など）

在校生保護者とサレジオ小学校中学校同窓会、その他に呼びかける。

<4> 宗教司牧部

1. マリア様への手紙焼き、プール開き、慰霊祭、クリスマスの集い、ドンボスコミサ

2. 児童生徒の活動 年2回の練成会、ミニ巡礼、クリスマス聖劇

<5> 主な工事

1. 平成30年度・31年度 空調設備の更新（約3,000万円）

平成30年度は、講堂・食堂・スタジオ・パソコン室を予定（約1,500万円）

半額を東京都私学財団の補助金で賄う予定

<6> その他

1. ネット・携帯講座（児童生徒・保護者）

2. 避難訓練 年3回実施

3. 台風被害 樹木の片づけで出費

4. 月1回の保護者バイブルクラス

5. バレー部全国大会ベスト8

6. スクール・ソーシャル・ワーカーを2月より配置

7. 20歳を迎えた卒業のための成人祝福式（3月）

8. 各種教員研修会

(2) 目黒サレジオ幼稚園

<1> 教育方針

【園のことば】 きよいこころ げんきなこども

創立者ドン・ボスコの教育理念である「宗教」「理性」「慈愛」を根本にして、家庭と密接に協力しながら明るく暖かい雰囲気づくりを目指す。又、幼児自身が愛されている体験を通して自ら神と人を愛する心、豊かな品性と国際的素養を身に付け円満な人格形成を目指し明るい社会人になるように育成する。

<2> ドン・ボスコの教育の要約

子どもを教育するには、①理性に基づいて個性を伸ばす保育室、②宗教心をはぐくむ良く祈る教会、③慈愛深く良く遊ぶ運動場、の3つの場所が必要である。特に宗教心の育成については具体的にドン・ボスコの教育における宗教教育を実践するために以下のようなことに取り組んできた。

- ①日常の中での祈り、神父様による宗教の時間
- ②行事の中で：聖母祭、クリスマス会、創立者ドン・ボスコのお祝いなど
- ③保護者の希望者に向けて月2回聖書と祈りの集い、さらにカトリック要理のクラスを開設

<3> 教師のあり方

- ①園の教育理念を深め、共通理解のもとに保育に取り組む
- ②一人一人の園児に積極的に関わり、子どもの状況をよく把握する
- ③子どもたちがのびのびと活躍できるような環境の設定を心がける
- ④思いやりの心とけじめのある態度を、教師自らが手本となって示す
- ⑤職員・園児・父母の相互間の報告、連絡、相談を密にし、常に反省する姿勢を持つ
- ⑥月1回、サレジオ会司祭から宗教教育についての研修を受け、カトリックの精神を身に付ける

<4> 家庭

- ①年頭に、教育理念を全父母に伝える
- ②家庭教育・幼稚園教育の大切さを理解して頂くよう、機会ある毎にお願いする
(家庭と幼稚園の教育観の一致、協力をお願いする。ー公共ルールや、躰などー)
- ③親自身が子どものお手本になるよう心掛けていただく

<5> 年間努力目標

- ①幼稚園全体として：思いやりの心を持ち、何事にも意欲的に取り組む
- ②学年ごとの目標：
<すみれ> (3歳児) 様々な環境に慣れ、園生活を楽しむ
<ゆり> (4歳児) 集団生活に必要な態度を身に付ける
互いの気持ちを伝え合いながら友達と関わる
<ばら> (5歳児) 状況の判断力を養う。感謝と思いやりの心を育む

<6> 財務関係予算方針

基本方針

- ①園舎の老朽化が進み、補修や修理では補えない状況が多くある為、予定通り園舎の改築を進める必要があった。しかし、建築費の高騰のため、状況を踏まえつつ、新園舎の建築を進めていく方針となった
- ②施設設備関係として、変電室の回収工事を行った

<7> その他

- ①平成29年度内には完成しなかったが、平成30年度4月よりホームページをリニューアルした

(3) 足立サレジオ幼稚園

<1> 教育目標：サレジオ会の事業として、ドン・ボスコの教育法の3本柱「宗教・愛情・納得」の実践に励んだ

- ①宗教、道徳教育に力を入れる（心に語りかける教育）
- ②常に子どもに寄り添い、愛情に満ちた指導をする（アッシステンツァの精神）
- ③納得の得られないままでの要求はしない（納得に基づく指導）
→毎日の保育と週単位の活動・年間行事の中で、積極的な姿勢をもって実践

<2> 教職員の資質の向上

- ①全職員が建学の精神、教育目標を心に刻みながら取り組むことが実践できた
- ②障がい児、あるいはその線上にいる子どもの指導法を、対象となる園児のいるクラス担任をはじめ、積極的に取り組む姿勢をもって実践できた
- ③サレジオ家族教職員養成講座、三浦での協働者との集いに参加し、園の基盤のドン・ボスコの教育法について学ぶ時間をもち職員で共有しました。
- ④教職員の保育後の仕事内容を見直し、効率化をはかるために、仕事内容を明確にし、全教職員で意識を共有する取り組みをした。

<3> 設備ならびに財務関係予算方針

- ①舞台上照明（既存LED）を8本増設
- ②園舎内（1階廊下）に園児の作品を掲示できるようワイヤーの設置を行った
- ③園舎内に設置したエアコン13台に関して専門業者の清掃を実施した

(4) 町田サレジオ幼稚園

<1> 教育目標

南多摩の自然に囲まれた明るい雰囲気の中で、のびのびと活動することで明るい心、おもいやりのある親切な心、素直で正直な心を育てる。

- ①隣接する小山内裏公園に行き、自然に触れる機会を増やした
- ②年少、年中、年長の3学年が揃い、学年間の交流を持つことで人間性の成長をはかった
- ③発達が遅く、ケアの必要な数名の園児への対応とその他の園児のケアのバランスを考え、サポート体制を整え、外部の機関と連携してサポートの必要な園児の成長を支えた

<2> 財務関係予算方針

① 施設関係

建物の改修については、床下の水の対策、デッキの不具合の修理を行った。

② 備品調達

園児数の増加、クラス数の増加による不足備品について、優先順位を決めて購入した。

③ 広報関係

開園して間もないこともあり、認知度を上げることが急がれるため、タウンニュースや新聞折り込みなどを通じて本園の存在を広く伝える取り組みを行った。